

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	「制服すごろく」を通して、既製服の表示の読み取り方や具体的な衣服の手入れの方法を知るとともに、その必要性を理解する。

第1学年2組 技術・家庭科(家庭分野)学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 よりよい衣生活を目指そう

2 題材の目標

- 衣服の着用と選択, 手入れについて関心をもって課題に取り組み, 衣生活をよりよくしようとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 自分や家族の衣生活について課題を見付け, その解決を目指して自分なりに工夫している。
(生活を工夫し創造する能力)
- 衣服の計画的な活用や適切な選択, 衣服の材料や状態に応じた手入れの基礎的・基本的な技術を身に付けている。
(生活の技能)
- 衣服の計画的な活用の必要性について理解し, 衣服の着用, 選択, 手入れについての基礎的・基本的な知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

生徒を取り巻く衣生活の環境は多様化し, 著しく変化している。流行のデザインを低価格で提供する量販店の急増により, 既製服の着用期間が短く, ファッション重視の傾向も見られる。その反面, T.P.O.に応じた着こなしや補修を重ねて衣服を大切に着用することへの関心は低い。さらに, 家庭のライフスタイルの変容により, 衣生活に関わる知識や技術を伝承する機会が減っている。日常的な洗濯は家族任せであり, 難しい補修や手入れなども家族や専門家に委ねているのが現状である。

「C衣生活・住生活と自立」の衣生活においては, 衣服の選択, 着用, 手入れについての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに, 衣服の機能についての関心と理解を深め, これからの生活を展望して, 課題をもって衣生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

そこで, 中学生が生活の自立を目指す中で, 自分の衣生活が家族に支えられていることや身の回りの衣服を整えることの大切さに気付かせる。そのために, 実践的・体験的な学習活動を通して, 衣生活への関心を高めるとともに, 習得した基礎的・基本的な知識や技術を生かして, 自らの衣生活を快適で豊かにしようとする能力と態度を育てたいと考え, この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

衣生活に関するアンケート(男子 17名 女子 14名 計 31名)

- ・衣服の手入れの学習に関心はあるか。
とても関心がある 8名 関心がある 20名 あまり関心はない 7名 関心はない 3名
- ・衣生活に関する学習を生かして家庭で実践する場合, 自分ができるところを書きなさい。(記述式)
アイロンかけ, 洗濯, コーディネート, 手入れ, 購入, 裁縫, たたみ方, 布を使った製作
- ・自分の衣服のトラブル(ボタンがとれた, 汚れ, すそのほつれなど)では, 誰が手入れを行うか。
家族 30名 自分 10名 クリーニング 6名 そのまま 1名 (複数回答)

衣服の学習への関心は高く, コーディネートや手軽にできる手入れは自分から実践している。一方でトラブルを自分で解決していない生徒や家族に任せってしまう生徒が多い。このことから, 衣服の管理は主に家族が行うという意識が強く, 技術的な難しさから自分で解決しようとする意欲には至っていないことが分かる。

(3) 指導観

本題材では, 中学生が日常的に着用することが多い制服などを取り上げ, 具体的な場面を設定しながら衣服の手入れが身近にできることを実感させる。また, 体験的に習得した衣生活に関する知識や技術を定着させるとともに, それらを活用して自らの衣生活をよりよく工夫し, 創造する力をはぐくみたい。そのために, 個々の学習の成果をお手入れ帖(ラーニングジャーナル)に積み重ね, 自分の考えをまとめたり, 発表したりするなどの言語活動を充実させる。さらに, 学習の成果の積み重ねを振り返る活動を通して, 達成感や成就感を味わわせ, 実感を持った学習にしたい。

本時では, 既製服の表示や衣服の手入れを題材にした「制服すごろく」に挑戦する。既製服の情報の読み取り方や衣服のトラブルに対する手入れの仕方について考えるとともに, 実際に自分の制服の点検を行う。その上で, 既製服の表示の意味を理解し, 衣服の状態に応じた手入れの必要性を実感させる。制服の点検を通して, 自分にできる衣服の手入れに気付かせながら, ねらいに迫りたい。

4 学習計画(12時間扱い)

次時	学習内容	関意態	工・創	技能	知・理
1 2	衣服の着用について考えよう	○	◎		◎
2	衣服の手入れの方法を知ろう				
1	日常着の点検をして適切な手入れについて知ろう【本時】	○			◎
1	日常着の適切な手入れをしよう(繊維の種類と洗濯)				◎
1	〃(洗剤の働きとしみ抜き)			○	◎
1	〃(ブラシかけ, アイロンかけ, 収納)	○		◎	
1	〃(まとめ, 発表)	○	◎		
1	日常着の適切な補修をしよう(まつり縫い)			◎	○
1	〃(ミシンでのほころび直し, スナップ付け)			◎	○
3 3	学習したことをもとに生活を豊かにする作品を作ろう	◎	◎	◎	○

5 本時の学習

(1) 目標

制服の手入れに関心を持ち, 課題に取り組みようとしている。
既製服の表示から情報を読み取り, 適切な手入れの方法があることを理解している。

(2) 準備・資料

・制服・制服すごろく・サイコロ・拡大サイズ表示・ワークシート・お手入れ帖(ジャーナル)

(3) 展開

(・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て 評価)

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 本時の学習課題を知る。 自分の制服を点検してみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・お手入れ帖を振り返ることで, 前時の学習内容を確認させる。 ・本時は, 自分の制服を題材にした学習であることを知らせ, 学習課題への意欲を高める。
2 「制服すごろく」に挑戦する。 (1) グループで制服すごろくをする。 (2) グループで改善策を話し合う。 (例) ・制服のズボンがしわしわになった→きちんとたたんでしまう。 アイロンをかける。 ・雨に濡れて嫌な臭いがした。 →消臭剤をかける。 ハンガーにかけて干す。	<ul style="list-style-type: none"> ◎「トラブル発生!」の場面では, グループで自分できる解決策を考えさせ, 意見交換しながら進めることを伝える。 ・トラブルを改善するための方法が思い浮かばないグループには, 普段家族がしてくれていることやTVで見た衣服の手入れなどを振り返るよう助言する。 ◎「トラブル発生!」に対する改善策を発表する。内容を全体で検討し, さらにグループでの意見交換を通して, 衣服の手入れの必要性に気付かせたい。
3 既製服についての表示について知る。 (1) 制服の表示を確認する。 (2) 既製服についての表示について知る。 ・「サイズ表示」 ・「組成表示」 ・「取扱い絵表示」 ・「はっ水性の表示」 ・「原産国表示」	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の制服はどんな状態か。「制服すごろく」を参考にし, 自分の制服を点検させる。 ・既製服の表示には様々な種類や表示の目的があることを確認させ, その意味について知らせる。
4 本時のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の制服にはどんな表示がついているか, 表示を確認し意味に着目させる。表示をもとに手入れをすることで, 衣服を長い間清潔に着用できることに気付かせるとともに, 実感させたい。
	<p>身近な制服の手入れに関心を持ちながら, 課題に取り組もうとしている。 (関・意・態: 観察, 話し合い, ジャーナル)</p>
	<p>既製服の表示から情報を読み取り, 適切な手入れの方法があることを理解している。 (知・理: ワークシート)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをお手入れ帖(ジャーナル)に記入させ, 自分の課題を具体的に考えられるように指示する。 ・次時の学習の予告をし, 家庭で使用している洗剤・洗濯の仕方の工夫を調べてくるよう伝える。

研究 テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	日常着用している制服のアイロンかけを行うことで、実践的な技能を身につける。

第 1 学年 3 組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 よりよい衣生活を目指そう

2 題材の目標

- 衣服の着用と選択、手入れについて関心をもって課題に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 自分や家族の衣生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫しようとしている。
(生活を工夫し創造する能力)
- 衣服の計画的な活用や適切な選択、衣服の材料や状態に応じた手入れの基礎的・基本的な技術を身に付けている。
(生活の技能)
- 衣服の計画的な活用の必要性について理解し、衣服の着用、選択、手入れについての基礎的・基本的な知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

生徒を取り巻く衣生活の環境は多様化し、著しく変化している。流行のデザインを低価格で提供する量販店の急増により、既製服の着用期間が短く、ファッション重視の傾向も見られる。その反面、T.P.O.に応じた着こなしや補修を重ねて衣服を大切に着用することへの関心は低い。さらに、家庭のライフスタイルの変容により、衣生活に関わる知識や技術を伝承する機会は減っている。日常的な洗濯は家族任せであり、難しい補修や手入れなども家族や専門家に委ねているのが現状である。

「C衣生活・住生活と自立」の衣生活においては、衣服の選択、着用、手入れについての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、衣服の機能についての関心と理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって衣生活をよりよくしようとする能力と態度を育てていくことをねらいとしている。

そこで、中学生が生活の自立を目指す中で、自分の衣生活が家族に支えられていることや身の回りの衣服を整えることの大切さに気付かせる。そのために、実践的・体験的な学習活動を通して、衣生活への関心を高めるとともに、習得した基礎的・基本的な知識や技術を生かして、自らの衣生活を快適で豊かにしようとする能力と態度を育てたいと考え、この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

衣生活に関するアンケート (男 13 名 女 14 名 計 27 名)

・衣服のコーディネートは誰が行っているか。	すべて自分で	24名	自分と家族で	2名		
・自分の制服の手入れ (ブラシかけ) は、誰が行っているか。	すべて自分で	20名	時には自分で	2名	やっていない	5名
・自分の制服の手入れ (洗濯やアイロンかけ) は、誰が行っているか。	すべて自分で	2名	時には自分で	9名	すべて家族	16名
・アイロンかけの正しい方法やうまくかけるコツを説明できるか。	できる	5名	できない	22名		

衣服の学習への関心は高く、コーディネートや手軽にできる手入れは自分から実践している。一方でトラブルを自分で解決していない生徒や家族に任せってしまう生徒が多い。このことから、衣服の管理は主に家族が行うという意識が強く、技術的な難しさから自分で解決しようとする意欲には至っていないことが分かる。

(3) 指導観

本題材では、中学生が日常的に着用することが多い制服などを取り上げ、具体的な場面を設定しながら衣服の手入れが身近にできることを実感させる。また、体験的に習得した衣生活に関する知識や技術を定着させるとともに、それらを活用して自らの衣生活をよりよく工夫し、創造する力をはぐくみたい。そのために、個々の学習の成果をお手入れ帖 (ラーニングジャーナル) に積み重ね、自分の考えをまとめたり、発表したりするなどの言語活動を充実させる。さらに、学習の成果の積み重ねを振り返る活動を通して、達成感や成就感を味わわせ、実感を持った学習にしたい。

本時の学習では、生徒が日常着ている制服を取り上げる。衣服の素材や形状に応じた正しい手入れの方法や効率のよいかけ方についてグループで考えさせ、アイロンかけの実習を行う。グループで考え、関わり合いながらアイロンかけを進めることで、互いの知識や技術を補い、自分にもできることや工夫できることを実感させ、実生活で実践しようとする態度を育てたい。

4 学習計画 (12 時間扱い)

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	2	衣服の着用について考えよう	○	◎		◎
2		衣服の手入れの方法を知ろう				
	1	日常着の点検をして適切な手入れについて知ろう	○			◎
	1	日常着の適切な手入れをしよう (繊維の種類と洗濯)				◎
	1	〃 (洗剤の働きとしみ抜き)			○	◎
	1	〃 (ブラシかけ、アイロンかけ、収納)【本時】	○	◎	◎	
	1	〃 (まとめ、発表)	○	◎		
	1	日常着の適切な補修をしよう (まつり縫い)			◎	○
	1	〃 (ミシンでのほころび直し、スナップ付け)			◎	○
3	3	学習したことをもとに生活を豊かにする作品を作ろう	◎	◎	◎	○

5 本時の学習

- 目標
日常着の適切な手入れに関心をもち、衣服の状態に応じたアイロンかけの課題に取り組もうとしている。
日常着の適切な手入れと衣服の素材や形状に応じたアイロンかけをすることができる。

(2) 準備・資料

- ・制服 ・ワイシャツ ・ブラウス ・セーター ・Tシャツ ・アイロン ・アイロン台
- ・仕上げ馬 ・霧吹き ・あて布 ・ワークシート ・お手入れ帖 (ジャーナル)
- ・ヒントカード ・テレビ ・パソコン

(3) 展開 (・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て □ 評価)

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 本時の課題を確認する。 効率的にきれいにアイロンをかける方法を考え、制服にアイロンをかけよう。	・お手入れ帖を振り返ることで、前時までの学習内容を確認させる。 ◎制服のアイロンかけの方法を考え、実践することが課題であることを知らせ、課題解決の意欲を高めるとともに、身近な問題としてとらえさせる。 ◎アイロンの適切な取扱いについて確認し、使用中、使用後の安全面への注意を十分するように伝える。 ◎組成表示や取り扱い絵表示を確認させ、布地に応じた使い方について考えさせる。 ◎グループで交替しながらアイロンをかけることを指示する。アイロンの持ち方、アイロンの向き、左(右)手の使い方等、適切な扱い方について、実感を伴わせながら正しく安全にアイロンを扱えるための活動を支援をする。
2 グループでワイシャツ、ブラウスにアイロンかけを行う (1) 表示を確認し、アイロンを温める。 (2) アイロンをかける。 (3) ワイシャツ、ブラウスをたたむ。	◎意見の共有や助言を通して、取れにくいしわにはスチームアイロンや霧吹きを活用して効率的にかけられる方法や、ブラシかけやたたみ方、収納のコツがあることに気付かせたい。
3 効率的にきれいにアイロンをかけるコツを考える。 (1) グループで話し合う。 (2) 全体で発表して共有する。	衣服の材料や状態に応じた日常着の様々な手入れの方法に関心をもち、実習に取り組んでいる。 (関・意・態：観察、ワークシート)
4 制服のアイロンかけを行う (1) 表示の確認をする。 (2) 方法・手順を考える。 (3) アイロンをかける。 【取り上げる衣服】 ・男子学生服 (上・下) ・セーター ・女子学生服 (ブレザー・ベスト・スカート)	◎衣服の表示を確認してからアイロンをかけるよう助言し、衣服の置き方やかける手順をグループで相談させる。形状に応じて効率のよい方法を考え、実践させ、活動を支援する。 ・方法が考えられない班には、ヒントカードを通して支援する。
5 実践した方法について発表する。	衣服の素材や形状に応じて、安全かつ適切にアイロンかけができる。 (技能：行動観察、実技)
	◎工夫してアイロンかけをしていた班は、写真をテレビに映して全体で紹介する。衣服の素材や形状に合ったアイロンのかけ方を提示することで、生活での実践意欲を高める。 ・学習の振り返りをお手入れ帖 (ジャーナル) に記入させる。 ◎これからの自分にできることは何かを投げかけ、生活での実践意欲を高める。

研究 テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	学校生活で起こり得る衣服のトラブル例を取り上げることで、実践的な課題解決の方法を考える。

第1学年3組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 よりよい衣生活を目指そう

2 題材の目標

- (1) 衣服の着用と選択、手入れについて関心をもって課題に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- (2) 自分や家族の衣生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫しようとしている。
(生活を工夫し創造する能力)
- (3) 衣服の計画的な活用や適切な選択、衣服の材料や状態に応じた手入れの基礎的・基本的な技術を身に付けている。
(生活の技能)
- (4) 衣服の計画的な活用の必要性について理解し、衣服の着用、選択、手入れについての基礎的・基本的な知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

生徒を取り巻く衣生活の環境は多様化し、著しく変化している。流行のデザインを低価格で提供する量販店の急増により、既製服の着用期間が短く、ファッション重視の傾向も見られる。その反面、T.P.O.に応じた着こなしや補修を重ねて衣服を大切に着用することへの関心は低い。さらに、家庭のライフスタイルの変容により、衣生活に関わる知識や技術を伝承する機会は減っている。日常的な洗濯は家族任せであり、難しい補修や手入れなども家族や専門家に委ねているのが現状である。

「C衣生活・住生活と自立」の衣生活においては、衣服の選択、着用、手入れについての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、衣服の機能についての関心と理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって衣生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

そこで、中学生が生活の自立を目指す中で、自分の衣生活が家族に支えられていることや身の回りの衣服を整えることの大切さに気付かせる。そのために、実践的・体験的な学習活動を通して、衣生活への関心を高めるとともに、習得した基礎的・基本的な知識や技術を生かして、自らの衣生活を快適で豊かにしようとする能力と態度を育てたいと考え、この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

衣生活に関するアンケート（男20名 女18名 計38名）

- ・衣服の手入れの学習に関心はあるか。
とても関心がある8名 関心がある20名 あまり関心はない7名 関心はない3名
- ・衣生活に関する学習を生かして家庭で実践する場合、自分ができることを書きなさい。（記述式）
アイロンかけ、洗濯、コーディネート、手入れ、購入、裁縫、たたみ方、布を使った製作
- ・自分の衣服のトラブル（ボタンがとれた、汚れ、すそのほつれなど）では、誰が手入れを行うか。
家族30名 自分10名 クリーニング6名 そのまま1名 （複数回答）

衣服の学習への関心は高く、コーディネートや手軽にできる手入れは自分から実践している。一方でトラブルを自分で解決していない生徒や家族に任せってしまう生徒が多い。このことから、衣服の管理は主に家族が行うという意識が強く、技術的な難しさから自分で解決しようとする意欲には至っていないことが分かる。

(3) 指導観

本題材では、中学生が日常的に着用することが多い制服などを取り上げ、具体的な場面を想定しながら衣服の手入れが身近にできることを実感させる。また、体験的に習得した衣生活に関する知識や技術を定着させるとともに、それらを活用して自らの衣生活をよりよく工夫し、創造する力をはぐくみたい。そのために、個々の学習の成果をお手入れ帖（ラーニングジャーナル）に積み重ね、自分の考えをまとめたり、発表したりするなどの言語活動を充実させる。さらに、学習の成果の積み重ねを振り返る活動を通して、達成感や成就感を味わわせ、実感を持った学習にしたい。

本時では、お手入れ帖を活用して、学校生活で起こり得る衣服のトラブルの解決策を考える。解決方法の提案を聞いて、自分の生活の中での実践が可能か、難しいかの意思表示をする。さらに、意思表示の理由を共有させることで、多様な解決の方法を知り、自分にもできることや工夫できることを実感させながら、ねらいに迫りたい。

4 学習計画（12時間扱い）

次	時	学習内容	関意態	工・創	技能	知・理
1	2	衣服の着用について考えよう	○	◎		◎
2	1	衣服の手入れの方法を知ろう	○			◎
	1	日常着の点検をして適切な手入れについて知ろう	○			◎
	1	日常着の適切な手入れをしよう（繊維の種類と洗濯）			○	◎
	1	〃（洗剤の働きとしみ抜き）			○	◎
	1	〃（ブラシかけ、アイロンかけ、収納）	○	◎	◎	
	1	〃（まとめ、発表）【本時】	○	◎		
	1	日常着の適切な補修をしよう（まつり縫い）			◎	○
	1	〃（ミシンでのほころび直し、スナップ付け）			◎	○
3	3	学習したことをもとに生活を豊かにする作品を作ろう	◎	◎	◎	○

5 本時の学習

- (1) 目標
日常着の適切な手入れに関心をもち、基礎・基本の内容を押さえて課題解決に取り組もうとしている。
日常着の適切な手入れについて、道具や洗剤を使った簡単にできる方法を考え、工夫している。
- (2) 準備・資料
・提示用衣服・お手入れセット（各種洗剤、しみぬき棒、洗濯ネットなど）・意思表示カード
・ワークシート（班、個人）・プレゼンテーション用ボード・お手入れ帖（ジャーナル）
- (3) 展開
（・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て 評価）

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 本時の課題を確認する。 よりよい衣生活の手入れについて考えよう ～こんな時どうする？～	<ul style="list-style-type: none"> ・お手入れ帖を振り返ることで前時までの学習内容を確認させる ・既習内容をもとに、衣服のトラブルの解決方法を考えることが本時の課題であることを知らせ、課題解決の意欲を高める。
2 衣服のトラブル例に対して、 班ごとに衣服の状況に応じた解決方法について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校生活で起こり得る衣服のトラブル例を取り上げることで身近な問題としてとらえさせる。 ◎実物を提示することで、実践的な解決方法を導く手立てとする。 ・解決方法を話し合い、そのキーワードをもとにプレゼンテーションを行うことを知らせ、活動に見通しをもたせる。 ・提示用衣服、お手入れセット、取り扱い絵表示、お手入れ帖を活用することを伝え、よりよい解決方法を考える手立てとする。 ・解決方法や衣服の手入れに関するキーワードが見つけられない班には、お手入れ帖を振り返るように助言する。 ◎解決方法のキーワードを活用し、自分でも実践できそうな衣服の手入れを提案するためには、お手入れセットの活用が有効であることを助言する。
【衣服のトラブル例】 ・ジャージ・ユニフォーム→泥汚れ ・制服(スカート・ズボン)→しわ ・セーター(ウール・アクリル)→汗 ・シャツ(織物・編物)→カラーのしみ	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の内容を押さえたキーワードを用いて、解決方法を考えることができる。 （関・意・態 行動観察：話し合い、ワークシート）
(1) 実践的な解決方法を考える。 (2) 解決のキーワードを考える。 (3) プレゼンテーションを考える	
3 よりよい衣服の手入れについて考える。 (1) プレゼンテーションを行う。 (2) 各班の提案に対して、実践できそうか、難しそうかの意思表示をする。 (3) 意見の交流をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのトラブル例について2つの班が担当することで、素材に応じた手入れの違いについても気付かせたい。 ◎トラブルの場面ごとに、自分で意思表示を行わせることで、自分の生活での実践に結びつけて考えさせたい。 ◎各班の提案に対する意見の交流を通して、自分にもできる手入れの方法があることに気付かせたい。 ◎意見交流の中で必要があれば、実際に活用されている道具や洗剤、簡単な手入れ方法を紹介することで実践の意欲を高めたい。 学習内容をもとに、道具や洗剤を使って簡単にできる手入れの方法を紹介できている。（工・創：発表、ワークシート）
4 学習を振り返り、自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをお手入れ帖（ジャーナル）に記入させ、自分の課題を具体的に考えられるように指示する。 ◎これからの自分のできることを班で共有し、生活での実践意欲を高める。

研究 テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	制服のほつれを例にした補修の仕方を取り上げることで、実践的な課題解決の方法を考える。

第 1 学年 1 組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

1 題材名 よりよい衣生活を目指そう

2 題材の目標

- (1) 衣服の着用と選択、手入れについて関心をもって課題に取り組み、衣生活をよりよくしようとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- (2) 自分や家族の衣生活について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫しようとしている。
(生活を工夫し創造する能力)
- (3) 衣服の計画的な活用と適切な選択、衣服の材料や状態に応じた手入れの基礎的・基本的な技術を身に付けている。
(生活の技能)
- (4) 衣服の計画的な活用の必要性について理解し、衣服の着用、選択、手入れについての基礎的・基本的な知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

生徒を取り巻く衣生活の環境は多様化し、著しく変化している。流行のデザインを低価格で提供する量販店の急増により、既製服の着用期間が短く、ファッション重視の傾向も見られる。その反面、T・P・O に応じた着こなしや補修を重ねて衣服を大切に着用することへの関心は低い。さらに、家庭のライフスタイルの変容により、衣生活に関わる知識や技術を伝承する機会は減っている。日常的な洗濯は家族任せであり、難しい補修や手入れなども家族や専門家に委ねているのが現状である。

「C 衣生活・住生活と自立」の衣生活においては、衣服の選択、着用、手入れについての基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、衣服の機能についての関心と理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって衣生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることをねらいとしている。

そこで、中学生が生活の自立を目指す中で、自分の衣生活が家族に支えられていることや身の回りの衣服を整えることの大切さに気付かせる。そのために、実践的・体験的な学習活動を通して、衣生活への関心を高めるとともに、習得した基礎的・基本的な知識や技術を生かして、自らの衣生活を快適で豊かにしようとする能力と態度を育てたいと考え、この題材を設定した。

(2) 生徒の実態

衣生活に関するアンケート（男 20 名 女 18 名 計 38 名）

- ・衣服の手入れの学習に関心はあるか。
とても関心がある 8 名 関心がある 20 名 あまり関心はない 7 名 関心はない 3 名
- ・衣生活に関する学習を生かして家庭で実践する場合、自分ができることを書きなさい。（記述式）
アイロンかけ、洗濯、コーディネート、手入れ、購入、裁縫、たたみ方、布を使った製作
- ・自分の衣服のトラブル（ボタンがとれた、汚れ、すそほつれなど）では、誰が手入れを行うか。
家族 30 名 自分 10 名 クリーニング 6 名 そのまま 1 名（複数回答）

衣服の学習への関心は高く、コーディネートや手軽にできる手入れは自分から実践している。一方でトラブルを自分で解決していない生徒や家族に任せてしまう生徒が多い。このことから、衣服の管理は主に家族が行うという意識が強く、技術的な難しさから自分で解決しようとする意欲には至っていないことが分かる。

(3) 指導観

本題材では、中学生が日常的に着用することが多い制服などを取り上げ、具体的な場面を想定しながら衣服の手入れが身近にできることを実感させる。また、体験的に習得した衣生活に関する知識や技術を定着させるとともに、それらを活用して自らの衣生活をよりよく工夫し、創造する力をはぐくみたい。そのために、個々の学習の成果をお手入れ帖（ラーニングジャーナル）に積み重ね、自分の考えをまとめたり、発表したりするなどの言語活動を充実させる。さらに、学習の成果の積み重ねを振り返る活動を通して、達成感や成就感を味わわせ、実感を伴った学習にしたい。

本時では、ズボンやスカートのほつれを例にして適切な補修の仕方を考え、体験を通して補修の技術を習得する。具体的には、すそを縫う縫い方としてまつり縫いを行い、教師が適切な縫い方を提示する。着用時に足との擦れを防ぐため、すそを三つ折りにして一定の間隔で縫う意味や、表布に縫い目が出ないように極少量すくう理由を体験を通して実感させたい。習得したまつり縫いの技術を今後の生活に生かそうとする意欲につなげながら、ねらいに迫りたい。

4 学習計画（12 時間扱い）

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	2	衣服の着用について考えよう	○	◎		◎
2	1	衣服の手入れの方法を知ろう				
	1	日常着の点検をして適切な手入れについて知ろう	○			◎
	1	日常着の適切な手入れをしよう（繊維の種類と洗濯）				◎
	1	〃（洗剤の働きとしみ抜き）			○	◎
	1	〃（ブラシかけ、アイロンかけ、収納）	○		◎	
	1	〃（まとめ、発表）	○	◎		
	1	日常着の適切な補修をしよう（まつり縫い）【本時】			◎	○
	1	〃（ミシンでのほころび直し、スナップ付け）			◎	○
3	1	学習したことをもとに生活を豊かにする作品を作ろう	◎	◎	◎	○

5 本時の学習

- (1) 目標
日常着の適切な補修について、学習した補修の方法（まつり縫い）で補修している。
日常着の適切な補修の目的と布地に適した方法について理解している。
- (2) 準備・資料
・提示用衣服（学生ズボン、スカート）・提示用基礎縫いサンプル（並縫い、まつり縫い）
・綿布（師範提示用・生徒練習用） ・裁縫箱（手縫い糸、長針、ものさし、指ぬきなど）
・お手入れ帖（ジャーナル）
- (3) 展開
(・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て 評価)

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 本時の課題を確認する。 まつり縫いの仕方を覚えよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・お手入れ帖を振り返ることで前時までの学習内容を確認させる ・既習内容と合わせ、衣服の補修方法を習得することが本時の課題であることを知らせ、課題解決の意欲を高める。
2 まつり縫いについて知る。 (1) まつり縫いについて、その用途や縫い目のよさについて知る。 (2) まつり縫いの正しい縫い方を理解する。 (3) まつり縫いを練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ◎制服のスカートやズボンのすそほつれを提示し、どんな縫い方をすればよいか考えさせることで、身近な問題としてとらえさせる。 ◎並縫いとまつり縫いの縫い目を提示し、どちらが見た目によいかを比較させることで、まつり縫いすそ縫いに適している点に気付かせる。 ・教師が大きな師範用の布でまつり縫いの方法を予想させ、実践しながら説明する。 ◎まつり縫いのサンプルや縫い方を師範提示することで、縫い方の特徴や運針の仕方を理解し、まつり縫いの技術を習得する手立てとする。 ・練習用布でまつり縫いの練習をさせる。 ・目安の幅を提示して、前半部分は布につけた印通りに運針する。印のない後半部分では、目安幅を意識して練習させる。 ◎理解が難しい生徒のために、縫い方のサンプルを用いて班活動で互いに教え合いながら練習させたり、個別に支援させたりして技能の習得をさせる手立てとする。
【まつり縫いの手順】 ・布地に適した手縫い糸と針を選択 ・すそ上げは、アイロンで三つ折りにする ・まち針をうつ順、しつけ縫い ・糸扱きで縫い目を整える	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 適切な補修の方法で補修することができる。 (技能：行動観察（体験）、練習布) </div>
3 学習を振り返り、自己評価を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返りをお手入れ帖（ジャーナル）に記入させ、自分の課題を具体的に考えられるように指示する。 ◎これからの自分にできることを班で共有し、生活での実践意欲を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 適切な補修の目的と布地に適した方法を理解している。 (知・理：ジャーナル) </div>

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	家族が暮らしやすい住まい方について、話し合い活動を通して、住まい方の解決の方法を考える。

第3学年4組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 家族と住まいのかかわりを考えよう

2 題材の目標

- 自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心をもって学習に取り組んでいる。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方について課題を見付け、その解決を目指して工夫している。
(生活を工夫し創造する能力)
- 住居の機能について理解し、安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

住まいは、家族にとって最も身近な環境であり、家庭生活の根幹を支える大切な場である。「C (2)住居の機能と住まい方」のAでは、家族の住空間について考え、住居の基本的な機能について知ることをねらいとしており、簡単な図などによる住空間の構想を扱うこととしている。

子どもから大人への心身の変化が著しい中学生の時期は、周りの干渉から遠ざかろうと、自分の部屋にいる時間が長くなり、個人の空間を好むようになる。しかし、生徒が現在の生活行為や家族の住まい方を見つめ、工夫し改善していこうとすることは、今後の住生活をより豊かにするものとする。住まい方に関する自分なりの価値観を育み、将来を展望したよりよい住生活を実践していこうとする態度を養いたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

住まいに関するアンケート(男子17名 女子15名 計32名)

アンケート内容	自分の部屋	リビング・茶の間	その他
1 家の中で1番長く過ごす部屋はどこですか。	16名	16名	0名
2 勉強はどこでしますか。	21名	11名	0名
3 夕食後30分ほどで過ごしますか。	12名	19名	1名(風呂)

家の中で1番長く過ごす部屋は、自分の部屋と、リビング・茶の間が16名ずつと半分に分かれ、生徒が居心地がいいと感じる空間は、個人生活の空間と家族生活の空間であることが分かる。また、勉強の時間や夕食後30分の過ごし方からも、家族によって生活行為のリズムには違いがあることが分かった。

(3) 指導観

本題材では、自分や家族の住空間と生活行為との関わりについて関心を高めるために、C(2)のイと関連させ、住空間を想像できるように、簡単な図を用いるなどして具体的に考えられるようにする。本時は、生徒にとって身近な漫画からモデル家族を取り上げ、イラストや鳥瞰図などの資料を参考に、より暮らしやすい住まい方を発見させたいと考える。その際、そこに住む人の住まい方によって、住空間が快適になる点を重要事項として指導したい。その上で、一人一人が自分の家の住まい方を見直し、よりよい住まい方を主体的に身に付けていこうとする態度を養いたい。

4 学習計画(6時間扱い)

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	1	住まいの役割を考えよう	○			◎
2	2	家族と住まいのかかわりを考えよう (本時)	○			
3	1	安全で快適な住まいを考えよう		◎		
	2	災害に備えた住まい方考えよう				◎
4	1	健康で快適な室内空間を考えよう		○		◎
	2	快適な室内環境を整える方法を考えよう		◎		○

5 本時の学習

- (1) 目 標
自分や家族の生活行為と住空間のかかわりについて、関心をもって学習活動に取り組むことができる。
- (2) 準備・資料
教科書 ・ワークシート ・モデル家族の鳥瞰図 ・モデル家族の顔カード
- (3) 展 開 (・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て 評価)

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 住まいの鳥瞰図を見て、どのような家族の住まいなのかを考える。	・導入時の工夫として鳥瞰図を取り上げ、どんな家族構成が適しているかを考えられるようにする。
2 本時の学習内容を知る。 自分や家族にとって、暮らしやすい住まいについて考えよう。	・前時で学習した住まいの役割を確認し、モデル家族の鳥瞰図を使って、住まいを5つの空間に分け、それぞれの場所で行っている生活行為を確認する。
3 モデル家族が気持ちよく住もうための条件を考える。 (1) 家族構成について確認する。 ・モデル家族1(7人家族・3世代同居) ・モデル家族2(6人家族・小学生の姉妹を含む) ・モデル家族3(4人家族・小学生1人と同居1人) ・モデル家族4(4人家族・乳児を含む)	・モデル家族の家族構成や年齢、性別をもとに、生活スタイルの違いにも目を向けさせる。 ◎個人の空間など、複数の人で1つの部屋を共用する場合にも触れ、それぞれの家族の立場を尊重しながら生活スタイルについて話し合いを行うよう助言する。 ◎家族の住まい方により、間取りや部屋数だけでなく、和洋室の使用方法などが異なることを押さえる。
(2) 和室・洋室のそれぞれの特徴を生かした使い方を確認する。	・リーダーを中心に話し合い活動を進めさせ、家族が住まいの空間を、どのように改善していくのかを考えさせる。 ・黒板の鳥瞰図にモデル家族の顔カードを貼りながら発表させ、モデル家族の住まい方が聞き手に伝わりやすいようにする。
(3) グループごとに、モデル家族を1つ選び、住まいの空間や部屋の使い方、改善点を検討する。	
(4) 話し合った内容を発表する。	
4 本時のまとめをする。 (1) 本時の学習を振り返る。	・各グループの発表から出された、家族が暮らしやすい住まいについてのキーワードを板書し、自分の住まい方を振り返る際のヒントとする。 ・自分や家族の生活行為と住空間のかかわりについて、関心をもって学習活動に取り組むことができる。 (関心・意欲・態度：観察、ワークシート)
(2) 次時の学習内容を知る。	◎次回の授業に向け、各家庭で自然災害に対して、どのような対策をとっているか調査しておくよう伝え、次時への意欲の向上につなげる。

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	家庭内事故に関する家族へのインタビューやチャイルドビジョン体験をもとに、子どもの家庭内事故の防止策を考える。

第 1 学年 1 組 技術・家庭科 (家庭分野) 学習指導案

指導者 ○ ○ ○ ○

1 題材名 子どもにとって安全な住まいを考えよう

2 題材の目標

- 安全で快適な室内環境に関心を持ち、整え方や住まい方の課題に取り組もうとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 室内環境について課題を見付け、安全で快適な室内環境の整え方や住まい方を考え、工夫することができる。
(生活を工夫し創造する能力)
- 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

中学校学習指導要領解説技術・家庭科編において、「C (2) 住生活の機能と住まい方」では、自分や家族の住空間に関心を持ち、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにすることをねらいとしている。

現代の中学生にとって住まいは、食生活や衣生活などに比べて、生まれたときから与えられているものであり、自分の力では変えることができないものだという先入観を持っている。しかし、住まいは食生活や衣生活と同様に生きる上で不可欠かつ重要なものであり、住まいの在り方に関心をもって、快適な住まい方の工夫ができるようにすることは重要である。住まいと生活の関わりについて理解を深め、自分の住まいの課題を見付け、より安全で快適な住まいを工夫し創造する能力を育てたいと考え本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

住まいの安全に関するアンケート (男子 17 名 女子 13 名 計 30 名)

1	自分の住まいは安全だと思いますか。	安全 15 名	どちらかといえば安全 13 名	危険 2 名
2	中学生になってから、家の中でけがをしったり危ない思いをしったりしたことがありますか。	ある 11 名	ない 19 名	
3	小さい頃 (小学生以下)、家の中でけがをしったり危ない思いをしったりしたことがありますか。	ある 15 名	ない 15 名	

アンケート結果より、本学級のほとんどの生徒が自分の住まいについて「安全」または「どちらかといえば安全」と考えていることが分かる。しかし、そのように答えた生徒の中にも家庭内事故に遭ったことのある生徒がおり、住まいには、予測しにくいところに危険が潜んでいるという認識が低い。家庭内事故の内容では、「階段から落ちた」が最も多く、中学生になってから 6 名の生徒に事故が起きている。また、幼少期に家庭内事故に遭った事のある生徒も多く、生徒の記憶にないものまで含めるとさらに多くなると考えられる。

(3) 指導観

家庭内事故は、生徒が思っているよりも身近で、命にも関わる危険なものである。しかし、そこに住む人の意識を高め、安全な住まい方の工夫をすることで防ぐことができるものも多い。そこで本時は、過去の家庭内事故について家族にインタビューし、その内容をグループ内で検討する。さらに子どもの家庭内事故の映像資料を用いて、生徒の住まい方に対する見方を変え、危機感を高めていく。そして、チャイルドビジョン (幼児視界メガネ) 体験を通して気がついたことなどをもとに、住まいの中での危険を予測し、子どもの家庭内事故を予防する具体的な方法を考えさせたい。

4 学習計画 (6 時間扱い)

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	1	住まいの役割を考えよう	○			◎
2	2	家族と住まいのかかわりを考えよう	○			
3	1	子どもの家庭内事故防止策を考えよう (本時)		◎		
	2	災害に備えた住まい方考えよう				◎
4	1	健康で快適な室内空間を考えよう		○		◎
	2	快適な室内環境を整える方法を考えよう		◎		○

5 本時の学習

(1) 目 標

家庭内事故に関する家族へのインタビューやチャイルドビジョン体験をもとに、住まいの中の危険を予測し、子どもの家庭内事故を防ぐための具体的な方法を考えることができる。

(2) 準備・資料

- ・ワークシート ・掲示資料 ・チャイルド体験レポート ・大型 TV ・パソコン
- ・家庭内事故防止グッズ (滑り止めシート、角クッション、コンセントカバーなど)

(3) 展 開

(・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て)

評価

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
<p>1 本時の学習課題を確認する。</p> <p>子どもにとって安全な住まいを考えよう！</p> <p>2 グループごとに子どもの家庭内事故とその防止策を考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>(1) インタビューしたことを報告し合い子どもの行動の特徴と住まいの危険を知る。</p> <p>(2) 子どもの家庭内事故の動画を見る。</p> <p>(3) イラストを見て危険を予測し、家庭内事故を防ぐための方法を考え、ワークシートにまとめる。</p> <p>・階段から落ちる→手すりや滑り止め、柵などをつける ・家具にぶつかる→角にクッションをつける ・タバコなどの誤飲→子どもの手の届かないところに置く ・ストープでやけど→柵を設置する ・ドアに指をはさむ→鍵やガードなどをつける</p> <p>(4) 予測した家庭内事故とその予防策を発表をする。</p> <p>3 本時の振り返りをワークシートに書く。</p>	<p>◎前時に学習した家庭内事故の定義や生徒に実施したアンケート結果、家庭内事故に関する統計資料などを提示して家庭内事故の現状を知らせる。そして、子どもの家庭内事故が多いことから、防止策を考えるために、家庭内事故に関する家族へのインタビューとチャイルドビジョン体験を実施して伝えるように伝えておく。</p> <p>◎事前に家族にインタビューをしてきた、自分が子どもの頃の家庭内事故の内容を報告し合い、多くの生徒が同じような危険を体験していたことに気付かせたい。</p> <p>◎話だけではイメージしにくいので、子どもの家庭内事故の動画を見ることによって、家庭内でも死につながるような事故が起こりうることに気付かせたい。</p> <p>・生徒の主体的な学びを進める手段として、生徒が身近に感じるアニメや漫画に出てくる住まいのイラストを用意し、生徒の意欲を高める。</p> <p>◎インタビュー内容やチャイルドビジョン体験レポート、前時で使用した家庭内事故の統計資料なども参考にして、どのような事故が起こる可能性があるかを予測するように伝える。</p> <p>・つまづいているグループには、乳児、幼児、小学生など、さまざまな年齢の子どもが生活することを想定して考えるように声をかける。</p> <p>・グループごとの発表を通して、互いに得た情報を伝え合う活動を取り入れることで、さまざまな家庭内事故とその防止策があることに気付かせる。</p> <p>◎発表に出てきた家庭内事故防止グッズ (滑り止めシート、角クッション、コンセントカバーなど) を見せ、店舗で手頃に手に入ることを紹介する。</p> <p>・「子ども」と「家庭内事故」のことばを使って振り返りをワークシートに書くように伝える。</p> <p>住まいの中の危険を予測し、子どもの家庭内事故を防ぐための具体的な方法を考えることができる。 (工夫・創造: ワークシート)</p>

研究テーマ	生活や社会との関わりを深める技術・家庭科教育
生活や社会との関わりを深める手立て	災害時における住まいの危険ポイントを見つけ出し、災害に備えた工夫を考える。

第 1 学年 2 組 技術・家庭科（家庭分野）学習指導案

指導者 ○○ ○○

1 題材名 誰もが安心して安全に暮らせる住まいを考えよう

2 題材の目標

- 安全で快適な室内環境の整え方や住まい方に関心をもち、住生活を豊かにしようとしている。
(生活や技術への関心・意欲・態度)
- 室内環境について課題を見付け、安全で快適な室内環境の整え方や住まい方考え、工夫することができる。
(生活を工夫し創造する能力)
- 安全で快適な室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法について理解している。
(生活や技術についての知識・理解)

3 題材について

(1) 題材観

安全で快適な私たちの生活は住まいによって守られ、住まいの中で営まれている。住まいがあることで、私たちは安心して心と体を休めることができていることは言うまでもない。しかし、住まいの造りや住まい方が原因となって事故が起こり、けがをしたり死につながったりすることがあることは多くは知られていない。
「C(2) 住生活の機能と住まい方」においては、住居の基本的な機能や安全に配慮した室内環境の整え方を知るとともに、安全で快適な住まい方を考え、具体的に工夫できるようにすることをねらいとしている。
そこで、自然災害を含む家庭内の事故やその原因について考え、災害への備えや事故の防ぎ方などの安全管理の方法や、安全な住まい方の工夫を考えさせたいと考え、本題材を設定した。

(2) 生徒の実態

住まいの安全に関するアンケート（男子 10 名 女子 15 名 計 25 名）

1 安全で安心な、住まいや暮らしを脅かすものとして、どんな災害や被害が思い浮かぶか（複数回答）	地震 23 名 火事 9 名 雷 4 名 台風 10 名 洪水 2 名 泥棒 2 名 土砂くずれ 1 名
2 1 であげた災害や被害のうち、一番怖いと感じるものはなんですか	地震 22 名 火事 2 名 台風 1 名
3 あなたの自宅では、2 であげた災害や被害に対する対策を行っていますか	はい 12 名 いいえ 13 名
4 3 で「はい」と答えた人に関きます。どのような対策を行っていますか（複数回答） 【3 の解答 地震対策 11 名】 非常用持ち出し袋の用意 10 名 家具や家電の固定 6 名 ガラス飛散防止フィルムの貼付 1 名 【3 の解答 火事対策 1 名】 消火器や消火スプレーの用意 1 名	
5 3 で「いいえ」と答えた人に関きます。どのような対策を行いたいですか、また行うべきだと思いますか（複数回答） 【3 の解答 地震対策 11 名】 非常用持ち出し袋の用意 10 名 家具や家電の固定 12 名 家の建て替え 5 名 分からない 5 名 【3 の解答 火事・台風対策 2 名】 分からない 2 名	

上記のアンケート結果から、地震に対する恐怖心を多くの生徒が抱いていることが分かる。地震などの災害に備えて、約 3 分の 1 の家庭が非常用持ち出し袋を用意しているが、自然災害への対策の備えが十分とはいえない。また、地震などの災害に備えた安全対策についても、家を建て替えることしか方法がないと思っている生徒や、対策が必要だと感じていても、どのような方法があるのかが分からないという生徒の状況が明らかになった。各家庭の事情に応じた安全対策の方法を考えるなどして、実践の意欲を高める必要があることが分かる。

(3) 指導観

本時では、室内の写真や住空間の図から危険な箇所を見つけ検討したり、過去の災害の例を取り上げ、必要な備えを話し合ったりする活動を通してねらいに迫りたい。
なお、指導にあたっては、現在の住まいを住まい方の工夫で、安全で安心できる空間にしていくことを十分認識させ、授業を展開していきたい。また、本校の生徒は東日本震災で自宅が大きな被害を受けた生徒も多く、地震に対する恐怖心やトラウマを抱えている生徒もいるので、生徒一人一人の住まいの現状にも配慮しつつ、自分の住まいの課題を解決しようとする意欲と態度を育てたい。

4 学習計画（6 時間扱い）

次	時	学 習 内 容	関意態	工・創	技能	知・理
1	1	住まいの役割を考えよう	○			◎
2	2	家族と住まいのかかわりを考えよう	○			
3	1	安全で快適な住まいを考えよう		◎		
	2	災害に備えた住まい方を考えよう（本時）				◎
4	1	健康で快適な室内空間を考えよう		○		◎
	2	快適な室内環境を整える方法を考えよう		◎		○

5 本時の学習

(1) 目標

地震への備えについて、安全で安心できる室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法を理解することができる。

(2) 準備・資料 ・教科書 ・ワークシート（班・個人）

- ・モデル家族のイラスト
- ・住まいの各空間の写真
- ・家具転倒防止具
- ・スリッパ
- ・モデル家族の鳥瞰図
- ・提示用カード
- ・ガラス飛散防止フィルム
- ・新聞紙

(3) 展開 (・留意点 ◎生活や社会との関わりを深める手立て 評価)

学習内容及び活動	指導上の留意点と評価
1 前時の学習内容を振り返る。	・家庭内事故を防ぐために、室内を安全で安心できる状態にする必要があることを確認させる。
2 本時の課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">今すぐできる、地震に備えた安全な住まい方を考えよう</div>	・前時に行ったアンケートの結果から、本時は地震に備えた住まい方の工夫を考えることを伝え、課題解決の意欲を高める。 ・モデル家族のイラストと鳥瞰図、各空間のイラストを提示し、住まいの空間を具体的にイメージできるようにする。
3 地震に備えて、安全で安心できる住まいにするための工夫を、班ごとに話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">【班ごとの担当空間】 ①リビング ②台所 ③波平とフネの部屋 ④カツオとワカメの部屋 ⑤洗面所 ⑥サザエとマスオとタラちゃんの部屋</div>	・安全対策を話し合い、授業の終末に地震に備えてどのような対策ができるかを発表することを知らせ、活動に見通しをもたせる。
(1) 震度 5 以上の地震が起こった時、室内の何がどうなるかを考える。	◎今の住まいを維持しつつ、すぐにできる安全対策を考えることを助言する。
(2) 地震の被害を軽減するための具体的な方法を考える。	◎地震対策として販売されている実物教材をいくつか提示することで、実践的な安全対策を導く手立てとする。 ・話し合いが進まないグループには、参考となる資料を提示しながら支援や助言を行い、より深く考えさせたい。
(3) 発表内容や、発表方法を考える。	
(4) 各班で考えた安全対策を発表する。	・発表時に、室内の何が危険なものとなるのか、地震の被害を軽減するために、今すぐできることは何かを必ず発表するように指導する。分かりやすく説明できた班を賞賛し、意欲を高めた。
4 自分の住まいで今すぐできる、地震に備えた安全な住まい方を考える。	◎過去の地震の例を取り上げ、必要な備えを検討したり、自分の家でもできる安全対策を具体的に考えたりして、実践への見通しをもたせたい。 ◎必要に応じて、家具転倒防止具・ガラス飛散防止フィルム・スリッパ・新聞紙などの地震対策グッズなどを紹介し、地震に備えた対策が重要であることを認識させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">地震への備えについて、安全で安心できる室内環境の整え方と住まい方に関する具体的な方法を理解している。 (知識・理解：発表、ワークシート)</div>
5 本時のまとめをし、次時の学習内容を確認する。	・本時での気づきや、理解できた内容を振り返り、少しの工夫で、安全で安心できる住まいになることを伝え、実践意欲を高める。